

事務所のVDT作業に関する調査研究

調査態勢

主任研究者	京都産業保健総合支援センター所長	横田 耕三
共同研究者	産業保健相談員	内藤 勝巳
共同研究者	産業保健相談員	高田 志郎
共同研究者	産業保健相談員	今井 節朗
共同研究者	産業保健相談員	橋本 日出男
共同研究者	産業保健相談員	上田 千里
共同研究者	産業保健相談員	山田 親久
共同研究者	産業保健相談員	中西 紀典

1.はじめに

最近の事務作業ではVDT機器の使用が多く、また、その種類も増加している。しかし労働衛生上の管理は十分されているとは考えられない。
 昭和60年12月20日「VDT作業のための労働衛生上の指針」が示された。この指針に従って作業や作業環境を管理すれば作業者の疲労などは軽減されると思われる。
 そこで京都市府下の事業所のVDT作業の実態を調査し、労働衛生管理の向上を図った。

2.調査研究の方法

京都府下の事業場について、当センター保有リストから、785事業場に「事務所のVDT作業に関するアンケート」を送付した。
 また、要望に応じて(1)「VDT作業の労働衛生上の指針」についての研修会。(2)VDT作業管理および作業環境管理の現場指導。(3)VDT作業調査。(4)VDT作業環境測定。についても実施した。

3.アンケートの回収状況

785事業場にアンケートを発送し、187事業場から回答があり、回収率は23.8%であった。

4.アンケートの回答結果について

Q1.デスクトップ使用作業について(複数回答可)

- ①一般事務作業【178事業場】②プログラム作成【79事業場】③設計、製図(CAD)【71事業場】④照会、検索【114事業場】
 ⑤数字等のデータ入力【165事業場】⑥その他【52事業場】

Q2.VDT作業形態について(複数回答可)

- ①一日中連続VDT作業を行う【63事業場】②一日の中、断続的なVDT作業を行う【139事業場】
 ③一日の中、ある程度まとまったVDT作業を行う【132事業場】④毎日はVDT作業がない【63事業場】
 ⑤数字等のデータ入力【165事業場】⑥その他【52事業場】

Q3.「VDT作業のための労働衛生上の指針」について

- ①周知してる【74事業場】②一部周知してる【77事業場】③周知していない【35事業場】④未記入

【1事業場】

Q4.

①【事業場】②【事業場】③狭い【13事業場】④未記入【1事業場】

Q5.照明器具のグレア防止対策について

①全器具について対策している。【21事業場】②一部の器具について対策している【113事業場】
③対策していない【51事業場】
④未記入【2事業場】

Q6.作業環境管理について

作業環境測定の実態

(1) 粉じんの濃度測定

①2ヶ月に1回【26事業場】②6ヶ月に1回【22事業場】③1年に1回【10事業場】④未実施【124事業場】⑤未記入【5事業場】

(2) 一酸化炭素の濃度測定

①2ヶ月に1回【30事業場】②6ヶ月に1回【15事業場】③1年に1回【7事業場】④未実施【130事業場】⑤未記入【5事業場】

(3) 炭酸ガスの濃度測定

①2ヶ月に1回【30事業場】②6ヶ月に1回【17事業場】③1年に1回【6事業場】④未実施【130事業場】⑤未記入【4事業場】

(4) 気流の測定

①2ヶ月に1回【25事業場】②6ヶ月に1回【22事業場】③1年に1回【6事業場】④未実施【130事業場】⑤未記入【4事業場】

Q7.作業管理について

(1) 休止時間の活用について

①活用してる【100事業場】②活用していない【80事業場】③未記入【7事業場】

(2) 管理基準について

①作成してる【47事業場】②作成していない【138事業場】③未記入【2事業場】

Q8.VDT機器の組織的な維持管理

①定期点検は組織全体で実施【62事業場】②【事業場】③定期点検は組織全体で実施していない【123事業場】④未記入【2事業場】

Q9.教育について

①毎年定期的に実施している。【8事業場】②適時実施している【74事業場】③過去に実施したことがある【36事業場】
④実施していない【64事業場】④未記入【2事業場】

Q10.当推進センターの対する要望

①「指針」についての説明。【事業場】②作業管理と作業環境管理の現場指導【27事業場】
③作業環境測定と作業調査【14事業場】

5.考察

今回の調査結果から、VDT作業に関する労働衛生管理は十分とは言いがたく、とくに作業環境測定の実施、組織的な管理活動や作業への教育の実施状況が良くない。今後当推進センターにおいて調査結果の内容説明をはじめ、管理の基本となる管理基準の作成等について研修会を開催する予定である。